

市街地のすぐそばに営巣する ハヤブサ(隼)



長野県庁の西側を流れる裾花川の通称「白岩」の一角に、毎年ハヤブサのつがいが営巣する場所がある。数羽のヒナをかいがいしく育てる野生の生物をこんなに身近に見ることができる第四地区自慢の場所。



巣で待つヒナのために、獲物を掴んで巣に急ぐ親鳥

時速300kmを超えるとも言われるハヤブサの飛ぶ姿



ハヤブサが子育てをする毎年4月頃から6月頃まで、全国各地から多くの野鳥ファンが集まり、一日中望遠レンズを構え、シャッターチャンスをうかがう様子は圧巻。

ハヤブサが飛び立つとシャッターの連写音が鳴り響き、有名人の記者会見場を彷彿とさせる。



ポタジェガーデンのラベンダーとハヤブサ



(左)巣立ち間近のハヤブサの一家
(下)ポタジェガーデンの脇の南八幡川の堤には長野百景のひとつ桜並木がある。



ながの祇園祭 御祭礼 屋台巡行

京都の八坂神社の祭典である祇園祭に倣って、各地で「祇園祭」が行われているが、善光寺の門前町として栄えた長野の町の「祇園祭」は、室町時代あるいはそれ以前に始まったとされており、善光寺住民の信仰力、経済力を誇示する大祭であり、上西之門町の「弥栄(ヤサカ)神社」の御祭礼として行われている。明治維新となって「神仏習合禁止令」が出されたが、寺中祇園会(ジチュウギオンエ 神仏習合の祭事)としての位置づけと伝えられ、「善光寺」も関わりながら、行われている。



現在の御祭礼は7月7日の「天王下ろし」から14日の「天王上げ」までの8日間行われている。天王下ろし・天王上げの神事は、妻科の「聖徳社」付近にあったとされる槻の大木に「笠鉾」を立てて行われた。天王上げ前日の13日は、善光寺開基の「本多善光(ホンダヨシミツ)」の命日と伝えられ、かつて、町民は戸口に献灯を下げ、各町が趣向を凝らした思い思いの「灯籠」を持って行進し、弥栄神社に奉納し、祇園祭を盛り上げた「灯篭揃い」が行われた。

現在の御祭礼のメイン行事は、期間中の日曜日に、加盟町の「踊り屋台」を賑やかに運行する「御祭礼・屋台巡行」である。新田町の会所(もんぜんぶら座)から「お先乗り」を先導に出発し、加盟町ごとに設ける会所でお囃子や舞踏を披露。大本願・善光寺山門・大勧進・弥栄神社を目指して巡行し、屋台を奉納する。

弥栄神社は、源頼朝公が建久7年（1196年）、善光寺を参拝した際、町に悪疫が流行して、その退散をすることを祈願して、悪疫退散のご利益のある京都の八坂神社の神(素戔鳴尊《スサウノミコト》)の分祀を命じ、祭祀させたことが始まりとされる。現在の社地は、安永3年(1794年)に大勧進が寄進したものである。



御祭礼の「踊り屋台」の巡行は、江戸時代までは善光寺周辺の町々が行っていたが、明治以降は長野駅開業に伴って町が南に発展し、次第に南方の町も参加するようになり、現在の御祭礼加盟町は19町である。（別表）第四地区では、西後町が宝暦7年（1757年）、新田町が大正14年（1925年）から御祭礼屋台巡行に参加している。

弘化4年（1847年）の善光寺地震の火災等によって、各町の屋台の多くは失われ、明治以降に屋台を再建したところが多い。祭典の形式も紆余曲折があり、屋台巡行は近年まで「善光寺御開帳」の時のみに行われていたが、平成24年から「年番町（ネンバンチョウ）」を中心とした毎年運行が復活し、現在に至っている。

弥栄神社御祭礼加盟町：年番（平成30年現在）

平成30年	西之門町	権堂町	東之門町	新田町
平成31年	上西之門町	元善町	大門町	問御所町
平成32年	西後町	緑町	北石堂町	（田町）
平成33年	（桜枝町）	南千歳町	東町	末広町
平成34年	南石堂町	上千歳町	東後町	東鶴賀町

※桜枝町、田町は休会中



大門町



問御所町



元善町



緑町



北石堂町



東町



南石堂町



東後町



上千歳町



権堂町



横沢町の笹鉾



屋台舞台で披露される日舞



第四地区 西後町の屋台 (見事な彫り物が特徴です)





第四地区新田町の屋台
(囃子屋台と囃子屋台が別になっています)



ながの祇園祭

中央通りの新田町交差点の南側でその年のお先乗りの少年の手によって綱切式が行われ、屋台巡行がスタートします。



その後屋台は中央通りを北上し、善光寺、弥栄神社、各町の会所と言われるところなどを巡ります。



屋台巡行には多くの人の協力を必要とします。伝統あるながの祇園祭を末永く継承して行きたいものです

ポタジェ(Potager)ガーデン裾花

ポタジェとは、草花やハーブを混植した実用と鑑賞の両方を兼ね備えた花壇のことと、裾花川河畔の「裾花緑地公園」の一部を、第四地区の住民とともに維持管理することを目的に、平成28年(2016年)5月に完成したもの。

公園の一角に約15m²のガーデンを22区画用意し、住民に1区画ずつ貸し、草花等を育てながら公園の維持管理をしてもらうという事業で、名称を「ポタジェガーデン裾花」として今日まで至っている。

かつては公園愛護団体が花壇を整備しながら公園整備をしていたが、高齢化によって、その負担が大きく、継続が困難になつたため、このままでは公園が荒廃してしまうという危機感を持った第四地区住民自治協議会が、長野市の補助金制度を利用して再整備した。

このガーデンの裾花川対岸には毎年ハヤブサの営巣する白岩があり、すぐ脇を流れる「南八幡川」の堤には地元の皆さんが丹精込めて植えた桜が見事に咲き誇る。なお、この南八幡川の堤は「長野市百景 市街地を流れる疎水百選」に選定された場所である。

このガーデンが整備されて以降、ガーデンを管理する方以外にもたくさんの人々が訪れるようになり、地域のコミュニティの場としての役割も帯びてきてている。



妻科の裾花川右岸の裾花緑地公園の一角に整備された
「ポタジェガーデン裾花」

資料

第四地区町別 人口推移

	諏訪町	西後町	県町	南県町	妻科	新田町
明治 31	367	1,020	662	397	768	1,543
明治 38	489	1,109	986	847	971	1,779
大正元	517	1,028	1,004	1,142	1,163	1,932
大正 5	580	1,076	974	1,400	1,137	2,107
昭和 25	652	634	947	1,867	3,090	1,286
昭和 30	408	573	1,118	2,022	3,427	1,322
昭和 35	336	511	986	1,894	3,314	1,141
昭和 40	316	432	874	1,455	3,082	788
昭和 45	300	351	664	1,216	2,714	562
昭和 50	254	279	576	878	2,469	338
昭和 55	240	256	436	735	2,236	238
昭和 60	170	298	505	684	2,079	266
平成 2	190	278	387	617	1,932	257
平成 7	182	280	344	512	1,821	239
平成 12	157	262	339	443	1,545	208
平成 16	143	253	305	401	1,445	219
平成 20	142	307	291	530	1,332	186
平成 24	145	306	267	555	1,208	175
平成 25	139	307	265	556	1,212	201
平成 26	138	305	253	557	1,198	230
平成 27	135	303	235	554	1,145	233
平成 28	134	288	239	552	1,187	233
平成 29	128	296	336	549	1,196	220

※大正5年までは長野市編「二十年間の長野市」大正6年刊、昭和25年は「のびゆく長野市」、昭和30年は「長野市町(部落)別世帯及び人口概数一覧表・昭和30年」、昭和35年以降は「長野市統計書(各年10月1日現在)」よりそれぞれ引用



第四地区住民自治協議会のシンボルマークです。
第四の「4」の文字が6つの町の住民の皆さんまで、人々
が手を取り合って第四地区の結束の強さと互助の精神
を表しています。

発 行	長野市第四地区住民自治協議会
編集長	横田 悅二郎(会長、西後町区長)
編集員	宮崎 保夫(妻科区長)、林 久仁彦(南県町区長)、酒井 勝司(訪 訪町区長)、小林 成亘(県町区長)、青木 茂(新田町区長)、安芸 洋一(妻科副区長)、徳武 昭治郎(妻科副区長)、仁科 秀雄(南 県町副区長)、小林 昌樹(西後町区長代理)、手塚 努(住民自治 協議会事務局長)、福澤 裕子(住民自治協議会事務局)
【順不同】	
写真撮影	山㟢 邦昭(妻科)、小林 竜太郎(長野県郷土史研究会)
写真提供	ながの祇園祭実行委員会ホームページ
特別寄稿	小林 竜太郎(長野郷土史研究会)
デザイン	officE iS
印刷・製本	長野プリントサービス(南県町)
発 行 日	平成30年4月1日